

宮城学院女子大学

MG発—コミュニケーション情報誌「パルティール」

Partir

VOL.6

2008.10

「Partir (パルティール)」はフランス語で“出発する”
—新しい時代に飛びたとうとする女性たちを支え、励ますために、
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。

巻頭座談会

私たちの今とこれから

チアリーディング部学生 × 宮城学院女子大学学長 吉崎泰博



「初代校長 E・R・プールボー」

MG archives

初代校長 E・R・プールボー
E・R・プールボーは宮城学院(前身は宮城女学校)最初の校長として、1886(明治19)年の学校創立から7年間、献身的にお務めになりました。「キリスト教に基づく女子教育を日本の女性たちに」。その思いを胸に日本派遣の呼びかけに応じたのはプールボー30歳の時でした。

巻頭座談会

私たちの今とこれから

チアリーディング部学生×宮城学院女子大学学長 吉崎泰博

- 05 シリーズ 思索の森の案内人たち
- 07 OG INTERVIEW 社会で活躍する卒業生たち
- 08 在学生の活躍を紹介! Students' Voice
- くつろぎの新コーナー **MG Cafe**
- 09 宮学生の特製オリジナル 私たちの健康レシピ!
学友会 ニュースMGが行く!
- 10 Campus topics
Club サークル紹介

Making of partir メイキング オブ(パルティール)

巻頭座談会

チアリーディング部学生 × 宮城学院女子大学学長 吉崎泰博

私たちの今とこれから

学生時代の出会いや学びの経験は一生の宝。今、その輝かしい瞬間を、宮学生たちはどんな思いで過ごしているのでしょうか。チアリーディング部「RED BULLETS」で活躍する4人に、吉崎学長と学生生活のこと、将来のことなどを熱く語ってもらいました。

吉崎学長 皆さんが今、学生生活で夢中になっていることや悩んでいることは何でしょうか。

梅津 夢中なのはチアリーディング(以下チア)です。夏の東北大会に向けて週4回練習しています。

福迫 私もチアのことです。卒業研究の実習が週一回あるのですが、チアの練習は一人でも欠けると成り立たない。実習で練習を休むことで、仲間迷惑を掛けているのではないかと悩んだりしています。

阿部(亜) 一昨年は東北大会で優勝しましたが、昨年は準優勝で悔しい思いをしましたが、だから今は余計にチアに熱中しています。教員への夢もあります。教員への夢もありますが、ほかにいろいろやりたいことがあって迷っています。

阿部(由) 今、チアはお休みして、就職活動中です。自分が何に向いているかわか



らないのが悩みです。でもいろいろと探そううちにここだと思えるところが出てくるのではないかと思います。

吉崎学長 福迫さんは、どんな幼稚園で働いたのですか?

福迫 まだ自分の保育観が確立していないのですが、子どもが子どもらしく自由に遊んでその経験から多くのことが学べるような教育をしているところがいいです。

吉崎学長 そのいう園を探す方法は?

福迫 月一回、卒業した歴代のゼミの先輩たちと一緒に勉強会をしていて、そこでみなさんの話を聞いて参考にしています。
吉崎学長 ゼミに情報が集まるシステムが出来ているんですね。



吉崎泰博 学長

発達臨床学科4年
阿部由記子 さん

英文学科3年
阿部亜美 さん

発達臨床学科4年
福迫由美子 さん

英文学科3年
梅津藍 さん



座談会のあとにみんなで“チア流OKポーズ”

座談会メンバー

- ◆ 英文学科3年 富谷高校出身 **阿部亜美**さん
- ◆ 英文学科3年 山形城北高校出身 **梅津藍**さん
- ◆ 発達臨床学科4年 相馬東高校出身 **福迫由美子**さん
- ◆ 発達臨床学科4年 第三女子高校出身 **阿部由記子**さん

座談会を終えて

学生生活を最大限にエンジョイしつつ、人間的に大きく成長していることに驚きました。本学の50ほどのサークルのほとんどが活発に活動しているので、皆さんが教室での学びに加えて、強い人間力を身につけるだろうと期待しています。

宮城学院女子大学学長 **吉崎 泰博**
九州大学文学部卒業。
2002年北九州市立大学学長、2005年4月より本学学長。



チアリーディングに夢中

吉崎学長 大会も近いということで、皆さんチアに一生懸命ですね。やっていて良かったことは？

梅津 応援で人を元気にするだけでなく、自分も元気になります。チアをやっていない自分では考えられない。

福迫 最初は興味がなかったのですが、大学祭の演技を見て「これはスポーツだ」と印象が変わりました。勇気と元気、笑顔があつて、女性の強さを感じます。



阿部(亜) もともと大学のホームページでチアを見たのがこの学校を選んだきっかけです。仲間と一緒に何かを成し遂げていくのが楽しくて、仲間がいいなと思える。

阿部(由) ダンスの音楽の編集やイベント用のTシャツの作製などいろいろな経験できました。チャレンジする気持ちが高まったことが良かったです。

吉崎学長 人の上に乘る演技もあるし、互いの信頼関係が大事ですね。

阿部(亜) 宮学では先輩後輩の上下関係なくニックネームで呼び合っているんです。

梅津 壁がなくなって仲間意識ができる。

福迫 ニックネームで呼び合うのは宮学だけだと思います。私たちの代が決めたんです。

吉崎学長 そこに宮学らしさを感じますね。OGとのつながりは？

阿部(亜) 先輩たちは練習に教えに来てくれます。演技やはじける笑顔はお手本。憧れです。

吉崎学長 皆さんが夢中になる理由がわかりました。ところで恋愛の悩みが出てくるかなと思っていたのですが(笑)。

梅津 チアの練習で遊ぶ時間がないから男の人と会えない。女子だから学校にはないし(笑)。

吉崎学長 アルバイト先にはいないの？

阿部(亜) いてもタイプじゃないとか(笑)。

吉崎学長 なるほど。でも外で男性の観察はできますね。基本的に「俺は男だ」と威張っている人、女性を低く見るタイプはだめですよ。ぜひお互いを尊重し合える人を選んで下さい。

かに燃える、そしていい仲間を作る、将来をしっかりと考える。これをぜひして欲しい。皆さんはもう十分やっていますね。今の時代、「どうせ私は」などといって、しらけている人もいる。世の中は才能や運も必要ですが、最初から気力をなくしている人が多い。若いうちは燃えるものを見つけて、頑張ってみることが大事ですね。

阿部(亜) 今、部活で副部長をしているのですが、人の上に立ってリーダーシップをとることの難しさを感じています。

吉崎学長 人の上に立つ者としての心構えは、会社なら、部下の一人ひとりを大事に思うということ。働く人が楽しく仕事ができるかどうかが、「給料分だけ働く」のではなく、働くことにプラスアルファの何かを見出せるようにするのがトップの役割です。

単位を取るために授業に出るより、本当に知りたいと思って授業に出ている方が多くを学べます。チアの練習も、いいものを作るには時間で区切れるものじゃないでしょう。上に立つ者は、そういう気持ちにさせることが大切です。日本人にとって、共に働くことは共に生きることでした。今はそれは少し崩れていますけどね。

共に成長し合える仲間作りを

吉崎学長 皆さんは、十年後、二十年後の理想の女性像はありますか？

梅津 理想は、スポーツマンの人と結婚して専業主婦で子どもは3人！でも現実的には自分も仕事を持って旦那さんに依存しないようにしたい。例えば、離婚してもちゃんとやっていけるような(笑)。

福迫 私は幼稚園教諭になって、2、3年したら結婚して、子ども産みたい。仕事は続けたいですが、幼稚園の先生はみんなすごく

私は、学生時代に結婚して四十数年になります。妻は結婚したとき健康に自信がなくて仕事を辞めたのですが、専業主婦になった妻と一緒に勉強できるよう私は新居にふたつ机を並べて準備しました。今、彼女は二つの組織の長として働いていますが、当時はふりかえて、そのことがとてもうれしかったというんです。一緒に並んで、一緒に成長してきたから出来たことだと思っつんです。

結婚してもやりたいことがあったら努力していく。夢は、すぐに叶うものではないけれど、同じ方向できちんとやっていけば必ず実現します。共に並んで歩める相手や仲間をぜひ見つけて下さい。



思索の森林の案内人たち

「学問する」ということは、新しい知識の世界を開く喜びに満ちています。学ぶことは、きつとこれからの人生に輝きを与えてくれるはず——そんな世界を案内してくれる先生方に、「学びの姿勢」についてお話を伺いました。

年齢を重ねるほどに知る経済学の醍醐味

たとえば、少子・高齢化社会といいますが…私の専門は経済理論で日本経済論ですが、たとえば後者では、少子・高齢化社会や階層と格差など今、世間で問題とされていることも取り上げています。

少子・高齢化の問題点とは何か。経済学の視点からいうと、社会保障の財源確保という問題になります。働ける人口(生産年齢)が少なくなれば、税金を納める人口も少なくなるから、将来の財源が足りなくなるという議論です。

でもここで、本当に働ける人口は少なくなっているのだろうかと疑ってみる。生産年齢とは

世界的な統計をとるための基準で15歳から65歳までとされています。けれども日本の現状を見れば、15歳から働く人は少ないし、65歳で働いている人も多い。就労終了年齢も平均寿命も著しく高くなったからです。日本という一国を時系列的にとらえるには、新たに計算を直す必要があります。

誤解を恐れずにその結果をいうと、現在の日本には政府やマスコミがいつているような少子・高齢化の問題は存在しない。先に述べた就労終了年齢や平均寿命の伸張を加味して社会制度を変更すれば、財源の問題はなくなるのです。

法律や制度を整えること、つまり制度設計には広範な国民のコンセンサスが前提となるでしょう。そうした制度設計の基礎資料となるもの、共通の社会認識となるものを提出するのが経済学の一つの役目です。政府等の発表している誰にでも入手できるデータを使ってどう料理するか、どういう認識や理論を提起できるかが経済学の技なんですね。

社会のメカニズムを解明する

経済学を学ぶ意味を学生たちから問われることがあります。労働といった社会的な経験がまだ少ないからだと思えます。経済学のおもしろさや必要性は、年齢を重ね社会経験を積めば積むほど実感することができるとです。

そういう意味では、経済学は最後にたどりつく学問かもしれません。私も経済学を学び始めたのは、だいたい年をとってからです。社会のメカニズムを解き明かせるのは、経済学ではないかと考えたからです。

経済学から見えてくるのは、私たちの生きていく時代と社会の構造です。資格や職業に直結するものではありませんが、世界を丸ごと理解するということですよ。

学生たちには、問題とされている事柄に対処する場合、「冷静に、そして情熱的に(Cool and Hot heart)」と伝えたい。それは経済学を学ぶのに必要なことであり、また学ぶことで養われていくものと思います。



経済学

人間文化学科
田中史郎教授

日本語教育から見えてくるもの

外国人学習者にとっての日本語とは日本語教育では、外国人など日本語を母語としない人々に日本語を教えるとはどういうことか、普段自分たちが自然に話している言葉の意味や使い方をどのように教えたらいいかを学びます。

また言語は文化であり、日本語学習者には異文化を学ぶストレスがあります。そうした心理を理解しながらこちらも相手の国の文化や政治、経済など社会の動向まで思いを巡らせる必要があります。学習者が日本の文化を理解しやすいように、そして「コミュニケーション」のための日本語を習得しやすいように、手を差し伸べていくのが日本語教師の役割だと思っています。

異文化の相互理解を深めるツール

日本語教育が、現在のよう相互理解や「コミュニケーション」の手段という視点で捉えられるようになったのは、戦後しばらく経ってからのこと。学問としては新しい分野に入ると思います。

私自身、夢だった日本語教育に携わるようになって、異文化を学ぶ学習者の気持ちを理解し

たいと思うようになり、海外派遣プログラムに応募し、韓国に行きました。中学生から社会人まで様々な対象に日本語を教えると同時に、異文化の環境で働き、言語を学ぶという経験をし、日本語学習者の心理に少し近づくことができました。

普段、学生たちは日本語学習者と触れ合うチャンスがなかなかない。そこで昨年(2007)年度は名古屋の南山大学の留学生と合同プロジェクトを実施し、様々な国籍の留学生と意見交換したり、協同作業を行うなど貴重な体験をしました。また、この夏には、韓国の高校や大学の日本語教育現場を訪問し、学習者と交流し、互いに学び合うことを目的とした研修旅行も企画しています。

共感、違和感から広がる視野

本学での日本語教員養成課程は、スタートしたばかりの新しいコースです。はじめは「日本語を教える」ということに、漠然としたイメージしかなかった学生たちも、勉強を進めていくうちに、日本語のおもしろさだけでなく、日本語

をツールに学習者と交流する楽しさを感じているようです。言葉の教育だけではない、結局は人間対人間のだという気づきを得ているのは大変嬉しいことです。

学生時代には、できるだけ広い世界を見てほしい。共感を持つ、あるいはカルチャーショックなど相手の文化に違和感を持つ、という体験は、他人への理解と自分や、自文化への内省を深めてくれるチャンスなのです。ステレオタイプで物事を見ていないか、偏見はないか。自分では気づかなかったものの見方や考え方を教えてくれるはずですよ。

PROFILE

准教授 澤邊 裕子

東京女子大学大学院修士課程修了後、国際交流基金ソウル日本文化センター、ソウル大学校専任講師などを経て2007年より宮城学院女子大学講師。2008年より現職。



日本文学科
澤邊裕子准教授

日本語教育学

● 田中先生おすすめの本 ●



「賢治とモリスの環境芸術」

大内 秀明 編著
時潮社 2,625円

農業指導に力を入れながら、音楽や演劇など芸術を楽しむ暮らしを説いた宮沢賢治は、19世紀の英国の社会主義者で世界的なアート&クラフト運動の創業者であるW・モリスの社会・芸術思想を受け継いだとされる。賢治とモリスをつなぐ「環境芸術」思想を書いた。著者は東北大学名誉教授。

● 澤邊先生おすすめの本 ●



「もしも…あなたが外国人に「日本語を教える」としたら」

東京外国語大学准教授・荒川洋平 著
スリーエーネットワーク 1,260円

日本語教育のエッセンスが楽しく、読みやすいタッチで書かれている。プライベートで教える人にも最適。日本語教育入門者におすすめの本。

社会で活躍する卒業生たち

OG INTERVIEW

何のために働くのか
自分と、自分の人生を見つめる
お手伝いをしています

まなびのたねネットワーク代表理事
宮城青年国際交流機構（宮城-Y・E・O）副会長
伊勢みゆきさん



— 代表理事を務める

「まなびのたねネットワーク」でのお仕事は？
仙台市が「自分づくり教育」と呼んでいるキャリア教育を中心とした学校教育支援のコーディネーターです。今はおもに小・中学生に、仕事や働くことの意味などについて学ぶワークショップ形式の授業を提案実施しています。

— 小・中学校でのキャリア教育の必要性とは？

子どものうちから「自分は何のために働くのだろう」、何のために勉強するのだろう」と考えることは、自分自身を見つめ、自分らしく生きることにつながります。それは同時に他人への理解も深めます。キャリアとは人生そのもの。働くこと、学ぶことは生きること、そういうことを伝えたい。

— 国際交流活動はもつひとつのライフワークとが。

大学時代の海外研修先のオーストラリアで、先住民のアボリジニに興味を持ち、卒論を書いたことがきっかけですね。卒業後にまたワーキングホリデーで訪れました。帰国後に、内閣府主催の「世界青年の船」に参加してネットワークを広げ、国や県の活動にかかわるようになりました。

— 自分に合ったキャリアを探っていくには？

会社を条件で探す前に、自分にとって「働くこと」の意味をきちんと考えてみることに。動いて、誰から「ありがとう」と言われたか考えてみてください。また、30歳になったときの理想像を描いてみて、それに必要なことは何かを考える。逆算してみれば学生時代の今、するべき第一歩が見えてくると思います。

伊勢 みゆきさん 1994年 国際文化科(短大)卒

生命保険会社に勤務の後、オーストラリアでのワーキングホリデーを経験。帰国後、児童英会話学校に勤めていた2000年、内閣府主催「世界青年の船」の参加をきっかけに、日本青年国際交流機構宮城県支部の活動にかかわる。「まなびのたねネットワーク」(特定非営利活動法人申請中)は2007年設立。

Students Voice

～在学生の活躍を紹介！～

私たちの「英図書」改造計画

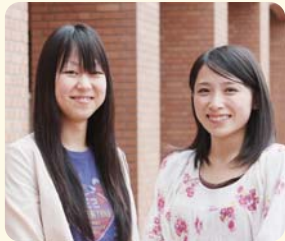


私達の大学には学科ごとに図書室があります。その中でも、英文学科の図書室(通称:英図書)は他学科のもの比べると、「図書室」というより「談話室」のようなものでした。

ここではこれまで、飲食、大声での会話、ソファでの昼寝等は黙認されてきました。私達も入学当時から、それが当然の風景であり、それが英文学科図書室だと思っていました。ところが、いざアンケートを実施してみると、英文学科の学生が求めている理想の英図書像は、本来の「図書室」として機能している英図書でした。しかし、今までの英図書が親しまれていたことも事実です。そこで私達は、「図書室」としての英図書、談話室としての英図書を今回の改造計画のテーマに掲げ、学生にこそは図書

室であるということを再認識してもらい、そのうえで、談話室としても使えるような図書室を目指しました。

具体的には、図書室の一角を勉強スペースとするために間仕切りを置き、勉強したい人が少しでも集中できる空間を確保しようと考えました。また、談話室として使えるスペースでは、子ども向けの無料英語教室をひらくことを考えているため、状況に合わせた空間作りが出来るように、可動式の家具を置きました。さらに、学年ごとに分かれた掲示板を設置することにより、欲しい情報が一目でわかるようになりました。そして、七月上旬に行われた英文学会の総会で、学生たちに英図書がどのよう変わるか、何故このようになるのかを説明し、今後英図書を使用する際に気をつけて欲しい事などを訴えました。今回の英図書の改造によって学生たちの意識がかわり、より良い学生生活を送る場として、多くの学生に利用されれば嬉しいのです。



右:伊藤 怜奈さん
英文学科3年
仙台東高校出身

左:伊藤 尚美さん
英文学科3年
常盤木学園高校出身

このプロジェクトに参加するきっかけは、先生が掲示した一枚のポスターでした。初めは本当に軽い気持ちで参加したのですが、アンケートを取って問題について考えるうちに、私達自身の意識も変わってきたのを感じました。

今回は英図書の特徴と雰囲気を生かした改造が出来たのではないかと思います。また、今後はこの英図書を活かしたイベントを積極的に企画したいと思っています。

私たちは「杜の都親善大使」です



私たち(国際文化学科4年・伊藤はる香&生活文化学科4年・小島麻由)は今年度、女性103名、男性6名、計109名の応募者の中から選ばれて、日々貴重な体験をさせていただいています。

私が親善大使に応募したきっかけは、4年生になって就職活動でナーバスになっていた時、学生生活最後に何か成し遂げたいという気持ちが強くあつたからです。そんな時、偶然応募要項を目にし直感でコレだ!と思いました。まさか自分が選ばれるなんて...自信もなかったのが驚きました。

親善大使のお仕事は常に緊張します。立ち仕事が多く「気力・体力・笑顔」が必要とされます。姿勢や立ち居振る舞い、作法など研修で厳しく指導を受けました。人に見られるお仕事なので、常に意

識して行動するよう心掛けています。親善大使をさせていただいてから、前よりしっかりしてきたような気がします。何より姿勢がよくなり、早起きになりました(笑)。朝早いお仕事が多いんです。

選ばれたことに対する責任。与えられた仕事に対する責任。それは強く感じます。でもお仕事は楽しいです。訪問先ではその土地の言葉でお話を伺い、土地の面白いものもいただいたりして(笑)。一種の異文化体験でしょうか。もちろんしっかり仙台もPRしてきます。

親善大使と学校の両立は大変な時もありますが、どちらにも私には大切なので頑張りがあります。皆さんもどうか応援してください。

(伊藤はる香談 文責編集部)



伊藤 はる香さん
国際文化学科4年
仙台東高校出身

親善大使のお仕事で、さまざまなお祭りやイベントに参加させていただきました。そこで、ひとつの企画を成し遂げることの大変さ、携わる人たちの盛り上げようという熱意を間近で感じることができました。キャンペーンを通して、この熱意も全国の方々にお伝えできよう、これからも頑張っていきたいと思っています。

Campus topics

WEBサイトもリニューアル！

皆さん、ご存知でしょうか。この春、本誌パルティールに先がけて大学のWEBサイトも大幅にリニューアルしました。トップページはスクールカラーを基調にした、しっとり落ち着いた雰囲気。歴史と品格を感じさせるレンガ造りの建物。2008年の年間キャッチフレーズは「わたし、輝く 明日、かがやく」です。

さて、今回のリニューアルにあわせて、宮城学院の「いま」を伝える新企画がスタートしました。一つは四季折々を映し出す「キャンパスダイアリー」(月数回更新)、もう一つは先生方が執筆する「リレーエッセイ」(月1回更新)です。写真は大学図書館。たぶん桜ヶ丘キャンパスでもっとも美しい風景の一つでしょう。みなさんもアクセスしてみてくださいね。



■ キリスト教教育特別集會に寄せて

6月19日(木)3校時にキリスト教教育特別集會が大学講堂で開かれました。国内外で声楽家として活躍されている菅英三子氏(京都市立芸術大学准教授、本学非常勤講師)の水準の高い歌声と清いメッセージが私たちの心に響きました。特に、艱難辛苦も含めて、何一つ無駄なものはない、すべてが宝物という英三子さんの生きた言葉は、これまで様々な困難を乗り越え、備えられた道をひたすらなる思いで歩いてこられた英三子さん自身の人生をそのまま物語っていました。生かされていることの重さと深さを実感しました。信頼、希望、勇気、そして他者へのやさしいまなざしなど、生きていく上で基本的に大切な精神を思いおこしたひと時でした。



Club

サークル紹介

MGM(歌劇団)

こんにちは！私たちはMGMこと、宮城学院ミュージカル・サークルです。これまでに「ミー・アンド・マイガール」「パロンの末裔」「銀の狼」「PUCK」「愛するには短すぎる」など、主に宝塚作品を上演してきました。写真は5月に行われた新入生歓迎公演「不思議の国のアリス」です。10月には「青い鳥を探して」を上演します。どうぞ楽しみに！



卓球部

こんにちは！卓球部です。私たちは現在部員が6名と小さい部ではありますが、それぞれバイトや勉強と両立させながら、楽しく活動しています。大会にも積極的に参加し、5月に行われた東北地区の春期リーグではなんと団体戦2位に輝きました。将来有望な卓球部をこれからも応援してください。よろしくお祈りします！



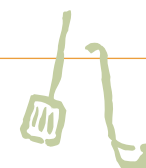
メイキング オブ 〈パルティール〉

— Making of partir —



今回の巻頭特集は、パルティール初の学長&宮学生の座談会でした。初めは少し緊張気味だったみなさんも外の撮影では元気いっぱい「OKポーズ」をきめ、学長先生も満面の笑み。「さすがチアリーダー！」と取材班も思わず納得の瞬間でした。巻頭特集では、これからもたくさんの宮学生が登場して頂く予定です。どうぞよろしく。

Recipe



宮学生の特製オリジナル 私たちの健康レシピ！

キッシュと言うと、カロリーが高く、手の込んだ料理と思われがちですが、パイ生地ではなく麩を使い、ヘルシーで簡単に作れるようなものになりました。カロリーは普通のキッシュの約半分！(1人分202kcal)おいしくて簡単でヘルシーなこのキッシュは食いついばのゼミ生に大好評でした。今回はきのこを使用しましたが、ほうれん草やベーコンを混ぜてもよし！栄養満点で朝食にもってこいの一品です。みなさんぜひおためしあれ☆

今回のレシピは…



食品栄養学科4年 川野 博子さん

カロリーお好きな簡単キッシュ 朝食・夜食・おやつにどうぞ!!



材料 / (ココット1個分)

- 麩 乾燥……………10g
- 卵……………1個
- 牛乳……………50cc
- スライスチーズ(とけるタイプ)……………1枚
- エリンギしめじ……………(好きなきのこ)…各30g
- 顆粒コンソメ……………少々(なくてもよい)
- 塩・こしょう……………少々

作り方

- ① 麩を水につけて戻す。
- ② ボールに卵と牛乳、顆粒コンソメ、塩・こしょうを入れてよく混ぜ、卵液を作る。
- ③ ココットに、水気を絞った麩ときのこを入れ、2の卵液を加える。
- ④ レンジで3分ほど加熱する。(卵が固まるまで様子を見ながら時間を調節して下さい。)
- ⑤ 4を取り出してチーズをのせ、トースターで2~3分焼き、焦げ目をつけて完成。

ここがポイント!

麩は牛乳ではなく水で戻し、しっかり水を絞りましょう。オーブントースターで焼くときは焦げ目をつけることでより美味しくなります。

学生会 ニュースMGが行く!

宮学ファッションチェックの巻

宮学生にはおしゃれな人が多い!! ということで、今回はキャンパス内でファッションチェックしちゃいました。今年の流行はワンピース!! みんな、自分に似合うような柄、形、着こなしを選んで、かわいく着こなしています。

カラフルな総柄ワンピース

宮学の名所といえばピアノ池。そこで昼食を食べていたおしゃれな2人をキャッチ! 2人とも、カラフルなワンピースを自分なりに着こなしています。ほりさん(左)はレースに重ねて女の子らしく、いとよさん(右)は、柄物を重ね、難しい着こなしもバランスが整っています。2人とも結構細かい柄なのに、うるさくない。う〜ん、このバランスのとおり方、なかなかおしゃれですね。



左:ほりさん(日本文学科4年)
右:いとよさん(日本文学科4年)

エスニックワンピース

3時間目の休み時間、次の講義のために渡り廊下を歩いているおしゃれでかわいい子を発見! エスニックなワンピースをシンプルに着こなし、今期の旬な着こなしを即、取り入れてます。この時期にブーツを取り入れているのもさすが!! バランスとれてますね。淡い色の配色も似合ってますよね。



こんさん(食品栄養学科3年)

突然の取材にも関わらず、快く引き受けてくれた皆さん。性格もよくてオシャレな宮学生に改めて感動しちゃいました!! 私たちニュースMGも今年度の活動は始動したばかり。みなさんの協力がとてもうれしいです。これからもよろしくお祈りします。

学生会ニュースMG編集部 荒川真亜紗・久保沙織・川村めぐみ

芝生の広場のある光景



新緑の季節を迎える頃、キャンパスの広い芝生は緑の絨毯の輝きを取り戻す。芝生は赤レンガ校舎の引き立て役としてばかりでなく、今や本学キャンパスには欠かすことのできない風景の一部になっている。

五月晴れのお昼時には、学生たちは三々五々芝生の上で昼食をとり、また広場の緑に目を休ませながら友人と語り合うなど、広い芝生はさながらお花畑のようである。そして秋の大学祭では、ここは賑やかな正にお祭り広場と化す。

しかしそれにも増して、この広場には走り回る元気な子どもたちの姿がよく似合う。大学附属幼稚園の園児たちにとって、ここはとても魅力的な保育活動の場である。なだらかな起伏の芝生は子どもたちの格好の遊び場であり、歓声を挙げながら走り、文字通り駆け回り、活気ある笑顔に満ち溢れる。それにしても子どもたちはこの広場に來るとよく走り回る。開放感がそうさせるのであろう。

このような園児たちの活動の中に実習生の姿があることも多い。キャンパスの

一隅にある本学附属幼稚園は、幼稚園本来的幼児教育の機能の他に、教員養成課程学生の実習の場としての役割を担っている。毎年延べ約三千数百人の学生が附属幼稚園を訪れ、園児たちの幼稚園生活に触れ、幼児の発達と保育について学んでいく。園児たちは「大学のお姉さんたち」がいつもそばにいてこのような環境を日常のこととして自然に受け入れ、大学コミュニティの一員としての役割をしっかりと担っているように思われる。

関連学科の学生ばかりでなく、本学の園児たちを見る目はいずれもやさしく、そこにはいつも笑顔が生まれる。幼稚園から大学院まで、そして幼児から壮年までが集う総合学園を象徴するのが、礼拝堂が静かに見守るこの芝生の広場であるように私には思える。

いつのまにか、本学に奉職して親子二代の教え子を送り出すほどの歳月が過ぎてしまった。本学のこの平和な光景が何十年もあるいは何百年も変わらぬことを願いながら。

文・発達臨床学科 畑山みさ子

編集後記

“新たな出発”

「パルティール」第6号をお届けします。今号からリニューアルし、新たな出発 (partir) です。表紙デザインが、より柔らかく爽やかな印象になったのをはじめ、内容も、「宮城学院女子大学の今」を一層生き生きとお伝えできるよう、在学生のさまざまな活動を活かす工夫をしてみました。今キャンパスに溢れる輝きとともに、「今」に至る長い歩みも、宮城学院の財産です。そのかけがえのない財産をご紹介しますコラム (MG archives) も設けました。キャンパスから出発した人、出発の日に向けて力を蓄えている人、そしてそのキャンパスを慈しみ育てた人、空間……。誌面に登場するさまざまな姿から、「宮城学院女子大学の今」の生きた鼓動と、「今」を支える時の厚みを感じていただければ幸いです。

何かと心の重苦しくなるニュースの多い昨今、「パルティール」が読者の皆様が明日へ一歩踏み出す小さな活力材になることを願いつつ。(F.O)